

子どもの素敵な言葉～子どもの権利保障は子どもの可能性を拓く～①

子どもの権利擁護委員 小林 央美



今回から3回にわたり、子どもの「素敵な発言」との出会いについて紹介します。「子どもの権利の尊重」を柱に置き、子ども自身の真の力や主体性を引き出せるように願って子どもに働きかけることによって、子どもが素敵な言葉を発してくれます。その言葉のすばらしさにびっくりします。本稿では、そのエピソードにお付き合いいただけるとうれしいです。

子どもの成長は、私たち大人を笑顔にしてくれます。なお、事例はプライバシーの保護を最優先に、論旨に影響のない範囲で改変して提示致します。

友達への真の思いやりとは何か

子どもの権利相談センターでは、子どもからの相談で面談を行うことがあります。そんな時に特に気をつけていることは、「子どもの主体性に働きかける」ということです。何か、マニュアルに沿った解決方法に当てはめて、子どもを指南するというのではなく、課題解決の主体者であるその子ども自身が、「自身のおかれている状況をどう感じて、どう捉えているのか」をひもとくことから始めます。

もしかすると、子どもにそんなことができるのだろうか、疑問を持つ方がいるかも知れませんが、子どもを侮ってはいけません。ゆっくり、じっくり、そして、「あなたを尊重しているよ。自分の考えや思いを言ってもいいという権利があるよ。子どもの権利は生まれながらにして、すべての子どもに無条件に認められているよ」というメッセージを伝えながら働きかけます。

すると、子どもは、じっと考え始めます。そして、意を決するかのようにパッと明るい表情を見せ、目を輝かせながら自分のおかれた状況を丁寧に語り始めます。その語りに聞き入りながら、その言葉の真意を分かろうとして向き合います。小さな質問を投げかけながら、考えを促すこともあります。そうするうちに、子どもなりの考えや解決策を見いだしていきます。

友達との人間関係で困っていた小学5年生のAさん。『友達は、明るくて、少しだけお調子者。その子の性格を考えると、今は、ふだん通りに遊んだりしていて、チャンスが来たときに自分の気持ちを伝えるという方法がいいと思う』と言いました。友達を思いやりながら、自分自身の権利も行使するという素晴らしい解決策を見出したのです。拍手ですね。

